

令和元年6月15日現在

機関番号：34315

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K12803

研究課題名（和文）国際観光地ニセコにおけるオーストラリア人コミュニティの形成と多文化研究

研究課題名（英文）Research on formation of Australian community and its multiculturalism in an international tourist destination, Niseko

研究代表者

武田 淳（Takeda, Atsushi）

立命館大学・産業社会学部・准教授

研究者番号：70736511

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究開始当初は、オーストラリアからの観光客と移住者そしてそれによって形成されたコミュニティに注目していた。しかし、近年ニセコのグローバル化が加速し世界中から観光客だけでなく、インターンシップ、ワーキングホリデーなどを利用して長期滞在するものやニセコに投資家やビジネスオーナーとして移住してくる外国人も増えている。このようなニセコの外国人人口の増加は地域社会の経済、教育そして言語景観へも影響を及ぼしていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

観光によって促されたグローバルモビリティによってニセコは他の外国人が多い地域とは異なる変容をし、旅行者、季節労働者、インターン、トランス移民によって頻繁に人が行き来する既存のコミュニティの概念では捉えられない国際的かつ流動的な空間になりつつあり、今後の観光を通して発展していく多文化コミュニティの新たな形を提案するものとなっている。

研究成果の概要（英文）：At the beginning of this research, we looked at Australian tourists and migrants, and their community. However, once we started our investigation, we found out that many foreigners come to Niseko as tourists, interns, and working holiday makers, and some even live in Niseko permanently as a business owner or investor. Such increase of foreign population in Niseko has influenced the local economy, education and even its linguistic landscape.

研究分野：社会学

キーワード：観光 日本語教育 多文化共生 移民

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ニセコで起きている現象が以下の点で特徴的であると考えていた。(1)日本の例えば群馬県大泉町や浜松市にみられる labour migration ではなく、観光をきっかけにコミュニティが形成され始め、移住者が観光業などに従事している。(2)ニューヨーク、ロンドンなどのグローバルシティにおける外国人コミュニティの研究は多くなされてきたが、ニセコのような小さな町の多文化社会については研究が少ない。(3)移民研究では外国人コミュニティをディアスポラという語を用いて表現されることがあるが、ニセコの場合は、外国人登録者が冬季に急増するので、一時的なディアスポラとして他のディアスポラとは異なる。(4)オーストラリア人と日本人の婚姻により生まれた子供が多数を占める学校が多文化共生の場となりつつある。(5)日本にありながらオーストラリア人が経営する宿泊施設が日本でもオーストラリアでもない第三国からの旅行者をもターゲットにして、ビジネスを拡大している。このような社会変容は、移民学、多文化共生論、観光学などの単独の研究ではなく、複合的な学際研究によってその構造がより明らかにされる。この研究では移民コミュニティを研究する研究代表者に、日本語教育に従事しながら多文化共生研究を行い、ボストン市での多文化研究実績のある分担者と、石垣市に来島する台湾人などを研究し、ニセコ地区を研究した経験のある分担者を加えた3人で共同研究することにいった。

2. 研究の目的

本研究は、北海道ニセコ地区を事例として、移民コミュニティと多文化社会の形成、移住者の多くによって営まれる観光業がどのように連動しているのか、またそれがどのように地域社会の変容につながっていくのかを、移民学、多文化共生論、観光学の3分野の共同研究で明らかにするものである。ニセコで展開するコミュニティの複合研究が、今後日本国内の別の箇所でも発展する外国人移住者が関与する観光業の発展と社会統合を考えることに寄与すると思われる。本研究はこのような認識を持って行う学際的アクティブリサーチである。

3. 研究の方法

本研究では以下の課題を設定し、研究代表者と分担者が常に協議をしながら実地調査(聞き取りと参与調査)を行い、研究を進めていく。

- (1)ニセコ地区に形成されているオーストラリア人を中心とするコミュニティの特性、構造、機能の聞き取り調査：日本人社会とのかかわりについても含む。
- (2)定住するオーストラリア人、一時的に滞在するオーストラリア人の日本社会への適応・統合：学校教育や日本人社会との交流など多文化共生的な視点で考察する。
- (3)観光産業における「ニセコ」の情報発信と国内外での反応調査：観光関連の組織づくり、外国語による接客事情、国外で行われる旅行博でのプロモーション状況と第三国におけるニセコイメージ形成などを調査。

4. 研究成果

研究開始当初は、オーストラリアからの観光客と移住者そしてそれによって形成されたコミュニティに注目していた。しかし、近年ニセコのグローバル化が加速し世界中から観光客だけでなく、インターンシップ、ワーキングホリデーなどを利用して長期滞在するものやニセコに投資家やビジネスオーナーとして移住してくる外国人も増えている状態だ。倶知安町の統計によれば、2000年度には849人であった外国人宿泊者数は、2017年142,857人に増加している。当初はオーストラリアからの旅行者比率が圧倒的であったが、最近では中国、東南アジアからの旅行者が増加傾向にある。また外国籍住民数の変化を見ると、同町で2003年12月に80人だったのに対して、2009年12月519人、2017年12月1,572人に増加している。通年滞在する外国籍住民が増加し、季節的労働から通年型ビジネスが展開しつつある。宿泊者の増加と比例して外国人による土地取得、現地法人の設立も増加している。このような観光によるニセコのグローバルツーリズムモビリティの影響を調査する中で、言語(景観)、多文化共生、そして教育について以下のことが明らかになった。

(1)グローバルリゾート化は、英語の地域公用語化に繋がりがねない。英語運用力の高い外国人が雇用され、英語が出来ない日本人従業員に対する叱責さえ生じている。とはいえ、日本全体のインバウンドブームも手伝い、地域住民の英語志向が観察される。一般町民に向けての英語学習機会の提供や小中高生の英語活動の機会が創生される。後志総合振興局管内では、英語を使う学生インターンシップのマッチングが行われている。英語が地域の観光資源・移動のプル要因になっている。英語化が進展するなかで、世界各国から来る従業員に刺激されスペイン語を学びはじめる事例も確認でき、多言語運用の次元があることも言える。

(2)言語景観の英語化はさらに高まる傾向にあり、スーパーマーケットでの商品説明における英語併記、タクシー運転手の英語理解が必要になっている。中国人旅行者の増加は、この地域での求人における中国語の要求につながる。また、日本人と結婚し移住した外国人もいることから、地元の幼稚園や学校では、いわゆるハーフの子供と一緒にいることが常態化している。また、両親ともに日本語を解さない児童が2017年度から就学し、通訳要員の確保と日本語取り出し授業が開始されている。

(3) 外国人観光客や移住者が多い地域では多文化共生についての問題が多く語られるが、ニセコでは住民間の問題は限られていることが分かった。もちろん地域で騒音問題など生活する中で迷惑をしているという日本人住民は少数であった。これはニセコ地域にはもともと自衛隊や道庁の支局があり通勤族も多く人の流動が盛んであるため、外国人に対しても寛容であるとされる。また日本人の中にも他府県から来たものや海外で長く生活したものも多く、他の文化の受け入れに慣れているのも要因だとされる。しかし、市街地の商店では後継者不足から不動産売却が行われ、それを外国人が取得し、飲食店などを開業するという現象が生じつつあり、スキー場周辺ではなく市街地においても外国資本が入ってくることに不安を感じる住民も出ている。

(4) ニセコに見られるモビリティは日本と外国の間におけるグローバルなものだけではなく、ニセコと他府県との間に見られるローカルモビリティでもあることが分かった。多くの外国人が行き来するニセコは国際的なリゾートとなり、それを求めて世界中から人々が訪れて来るが、同時に日本国内でもニセコに憧れ移住してくるものもいる。その日本人たちの多くは海外で暮らし帰国した後、日本で生活を窮屈に感じていたが、ニセコは日本ではあるが外国のような雰囲気があり居心地のいい場所に感じたという。これらの移住者の多くは若い世代でカフェやレストランの飲食そして観光に関わる仕事に従事しニセコ地域を活性化する役割も担っている。

(5) ニセコ地域の特徴がどのように外国人配偶者をもつ日本人母親の教育方針に影響しているかについて調査した結果、母親たちが持つ意識として、ニセコ圏が形作る(英語を中心とする)複数言語環境は子どもに対しても多様な人生観を日々示してくれる、外国人を身近に感じる環境は子どもが将来世界で活躍する際にプラスに働くと考えている、町をあげて国際化に取り組むニセコは小さなコミュニティの中になかの良さと国際都市の良さの両方をもっている地域、として評価していることが分かった。これらに加え、外国人や様々な背景を持つ日本人が混在するこの地域は、国際児である自己を肯定することができる環境であり、かつ英語や多様な考え方に接することができ、このような環境は国内において貴重だとする意見が多く見られた。地域に受け入れられているという安心感は子どもが成長する過程において重要であり、親が子どもに選択する環境や判断過程に影響していることが分かった。さらに、母親たちが成長過程における日本語/英語の位置づけの選択の重要性、および、日本人も外国人も差別なく受け入れられるようになるためにはそのような地域で成長することが重要であるという認識を持っていることが確認できた。また、母親が子どもの言語環境や学習環境を選ぶプロセスとしては、どのような人生を歩んでほしいかの親としての希望(成長過程で変化する)の意識化、自分の経験から子どもの方向性を決定する「意味世界」の存在の意識化、学びを決定づける学校教育・学習システムの選択、豊かな人間性の成長をもたらすのに必要な地域・地域文化の選択、どのようなスタンスで英語/日本語(その他)に関わるかの選択、といった流れがあることが示唆された。

このように観光によって促されたグローバルモビリティによってニセコは他の外国人が多い地域とは異なる変容をし、旅行者、季節労働者、インターン、トランス移民によって頻繁に人が行き来する既存のコミュニティの概念では捉えられない国際的でかつ流動的な空間になりつつあり、今後の観光を通して発展していく多文化コミュニティの新たな形を提案するものとなっている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 1 件)

武田淳 “Travel destination as a global cosmopolitan site: Australians in the Japanese ski resort Niseko, Hokkaido”, *Social Alternatives*, Vol. 36, 2017, pp.50-56.
(査読有)

[学会発表](計 11 件)

武田淳 2018 “Inbound mobility matters: Linguistic landscape and bilingual education in Niseko, Hokkaido”, *Anthropology of Japan in Japan Fall Meeting 2018: Displacements and potentials.*

山川和彦 2018 言語島化するニセコ観光圏 グローバルリゾートの言語政策を検証する、韓国言語研究学会(国際学会)

山川和彦 2018 ニセコ圏の発展と英語化の進展が引き起こす課題、日本言語政策学会第20回研究大会

正宗鈴香 2018 複数言語環境で学ばせる親の意識 - ニセコ圏在住の母親への聞き取り調査から -、日本言語政策学会第20回研究大会

山川和彦 2017 観光は文化の交流か衝突か 北海道ニセコ・石垣島を事例として、台湾・東呉大学+観光コミュニケーション研究会 国際研究集会(国際学会)

山川和彦 2017 観光における言語的課題領域、バンコクサイアム大学:日タイ国交樹立130周年記念 2017 国際シンポジウム 第二部観光コミュニケーション(国際学会)

武田淳 2016 “Australians in Japan: The emerging Australian diaspora in Niseko, Hokkaido”, *Australia and the Asia-Pacific in Literature and Culture.*

武田淳 2016 “Australians abroad: from global mobility of Australians to emerging diasporic Community”, The 15th International Conference of Australian Studies in China; Australia in the World: Past, Present and Future.

山川和彦 2016 観光地の段階的発展と言語 北海道ニセコを事例として, 日本タイ共同国際研究集会

山川和彦 2016 観光地の発展と観光人材育成に関する一考察, 韓国言語研究学会

武田淳 2015 “Intersections of tourism and migration: Australian community in the Japanese ski resort, 13th Asia Pacific Conference: Societal transformation in Asia Pacific; charting the waves of change”

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 山川 和彦
ローマ字氏名: (Kazuhiko Yamakawa)
所属研究機関名: 麗澤大学
部局名: 外国語学部
職名: 教授
研究者番号(8桁): 30364904

研究分担者氏名: 正宗 鈴香
ローマ字氏名: (Suzuka Masamune)
所属研究機関名: 麗澤大学
部局名: 外国語学部
職名: 教授
研究者番号(8桁): 80337724

(2) 研究協力者

研究協力者氏名: ジュリー マッシュュー
ローマ字氏名: (Julie Matthews)

研究協力者氏名: 高田 知仁
ローマ字氏名: (Takata Tomohito)

研究協力者氏名: 清水 泰正
ローマ字氏名: (Shimizu Yasumasa)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。